



## 肝臓のロボット手術が

### 始まります



消化器外科 科長

神藤 修

肝臓の腫瘍に対する最良の治療法は肝切除です。従来から行われてきた大きく開腹する手術に加えて、当院では腹腔鏡手術も行っています。

これは、小さな創からおなかの中を腹腔鏡（カメラ）で観察し、各種の鉗子（手術器具）や電気メスなどの器具を操作して肝臓を切除する手術です。この手術は開腹手術と比較して患者さんの体への負担が少ないため、手術後の回復が早く、早期の退院・社会復帰が可能となっています。

今年8月、当院に「ダヴィンチ」という最新の手術支援ロボットを導入しました。今までの腹腔鏡下手術ではモニター画面を見ながら手術を行なっていました。ダヴィンチ手術では術者はコックピットのようなコンソールボックスに座り、立体的な画像であったかもおなかの中で自分が動いているかのような感覚で手術することができ。ロボットアームが術者と一体となって自由かつ繊細に動くことで、スムーズで精緻な

手術操作ができるようになり、腹腔鏡手術観察下での肝切除の可能性が広がります。

ロボット支援下肝切除は新しい術式で、今年4月から一定の施設および術者の条件を満たした場合に保険適応となりました。当科では来年1月の開始をめざして準備中です。

肝切除は個々の患者さんの状態に応じて最良の術式を選択することが重要です。すべての肝切除がロボット支援下でできるわけではありません。肝切除を受けることになった場合、その方法の一つにロボット支援下手術が挙がる際には、担当医とよく相談して決めることが大切です。



▲手術支援ロボット「ダヴィンチ」

vol.85

「違い」や「多様性」を認める人権感覚

ふれあい交流センター センター長 藤田 圭二

ふじた けいじ



10年近く前のことですが、私が小学校の校長をしていた時、全校会礼で「努力のツボ」という話をしたことがありますが、それは、「人は生まれながらにして、『努力のツボ』を神様からもらいます。そのツボは、自分には見えず、大きさもそれぞれ違います。人は、努力をいっぱいこのツボに詰め込んでいきます。大きなツボを持っている人は、なかなか成果が見えない場合もありますが、必ずいつか『努力のツボ』がいっぱいになり溢れてくる時があります。その時を信じて、自分のツボにいっぱい努力を詰めていきましょう。『必ず努力は報われます』という内容の話です。この話を今でも覚えていると言う卒業生が何人かいます。小学生の時に聞いた話なのに、その子たちの心に強く残っていることをうれしく思います。

しかし、現実問題として、努力は必ず報われるのでしょうか。私は、次のようなお二人を知っています。一人目の方は、大企業の正社員でしたが、何らかのトラブルで、退職を余儀なくされ、職を転々としながらも自分の希望する職種への再就職を目指して努力をされていました。しかし、思うように引きこもってしまいました。二人目

の方は、中小企業で、毎日こつこつと働き、やっとの思いで家を建てたのですが、災害に遭って、その家に住めなくなり、途方に暮れてしまっています。このお二人には、努力が足らなかったのでしょうか。私は、違うと思います。資本主義社会においては競争原理が働き、ある意味、弱肉強食の世界といえるでしょう。ですから、いくら努力しても報われないと感じている人も多いのではないのでしょうか。

弱者に優しい社会は、本当の意味において、成熟した社会・国家だと思えますが、今の日本は、そして、私たち一人一人はどうでしょうか。もちろん、人の幸せは十人十色でさまざまです。ある人が幸せと思う出来事が、他の人にとってはそのように感じないこともあるでしょう。しかし、私たち一人一人は、幸福の違いや多様性を認めつつ、それぞれの幸福を味わうために挑戦し続ける権利を持っています。人生において、挑戦する機会の平等は保障されるべきです。そして、努力が報われる社会を我々の手で作り上げていくと同時に、なかなか努力が報われないと感じている人たちとも支え合い、「違いや多様性」が大切にされる日がやってくることを願っています。